

増田地区は1つじゃなかった？ ～増田村、縫殿村、八木村を歩く～

横手市は、中世から近世初頭までに築かれた中世城館が統治機能を有していました。特に小野寺氏は、各城館を結ぶ道を整備し、城館の置かれた集落は交通の結節点となり、複数の集落の集合体「村」を形成していきました。

このような歴史的背景から、今回は増田地区を会場に遺産探訪を実施しました。

増田地区は、小野寺氏が支配した増田城と、要所とされた八木村には八木城という支城が築かれ戦略上の要所でした。また、増田城の台所の1つとして穀倉地帯として栄えた地でもありました。このことから、増田地区は商品の集積地としての性格を有するようになり、現在でも「増田の朝市」が開催されています。

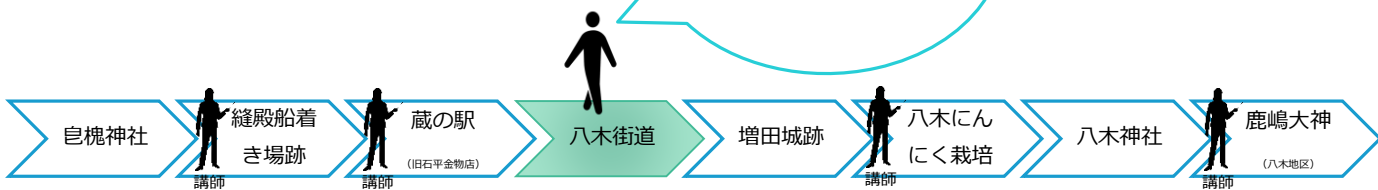
また、秋田藩が編纂した『六郡郡邑記』の八木村の章では「此村、田畑の外、業なし。蒜・芋の子を名産とす」と記されています。「蒜」とは「八木にんにく」を指すと考えられ、八木集落では、現在でも「八木にんにく」という伝統野菜を栽培しており、このことは、史料と合致し、現在でも連綿と受け継がれていることが見受けられます。



▲増田の朝市の様子

今回の散策ルート（概要）

今回の散策の
キーポイントとなる
場所です。



今回の講師からひと言

今回、講師を務めていただいた 片倉 嘉吉 さんより一言いただきました。

80歳後半に差し掛かり、生まれ育ったこの地に当たり前にあった「八木にんにく」が、「食」の歴史文化遺産という格をつけていただき、もうひと踏ん張り頑張ろうと思った次第です。

私の父や祖父が種を絶やさぬよう令和の時代まで守ってきたにんにくを、今度は歴史文化遺産として市民の皆様にご紹介し、少しでも貢献できればと思っています。

農業離れが叫ばれて久しくなりますが、今度は歴史文化の語り部として、少しでも「八木にんにく」を守ってくれる人が育つことを願っています。

